

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

| | |
|-------|------------------------|
| 施設名 | ベイビーピース |
| 施設所在地 | 江戸川区船堀2-15-17ドウェル船堀105 |

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

本園の近くには新川やたくさんの公園・緑があり、自然豊かな環境であるため、魚やカモ、亀、虫、花、木の実などの自然物に出会う場面がたくさんあるためこのテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

令和7年4月より基本的に毎日戸外活動を行った。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・戸外活動にて出会った自然物を観察したり、園に帰ったらそれらについてすぐに調べられるような環境を整えた(図鑑、絵本、絵本棚の購入)
- ・色々な公園での戸外活動を設定する上での安全管理を徹底した。(遊ぶ前の安全点検・バギーの点検・人数確認等)

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・クラスごとに月、週のねらいに合わせ戸外活動を行った。
- ・園周辺や新川沿いの散歩、公園遊びを通して自然物に出会える場を設けた。
- ・戸外活動中に会った自然物を園に戻ってから絵本や図鑑で調べたり、保育者と一緒に会話の中で振り返った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・はじめは保育者が主体となり、自然物を見つけたり観察する様子を見せることで、子ども達は興味関心を示していたが、時間を重ねるごとに、子ども達からの発見や「これは何だろう?」という探求心が芽生えた。子ども達が主体となり、じっくり観察したり園に戻ったら絵本や図鑑で調べてみようという姿が見られるようになった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・0～2歳児の子どもでも、毎日の戸外活動を通して発見や気づきがあることが分かった。大人とは異なる目線で、「これは何だろう」「触ってみよう」など、探求心が芽生え、自ら手を伸ばす姿が印象的だった。これまでは見て、触れていただけだったが、教材を揃えることでそこからさらに“調べる”という活動に広がった。
- ・緑豊かで新川や公園に囲まれた本園の特色を活かし環境を整えることで、子ども達の探求心を引き出すことが出来た。戸外へ出て自然物に触れるだけでなく、1年を通して全身で季節を感じる経験は、乳幼児期にとって大切な体験であることを再確認した。今後も、地域資源を利用しながら、子ども達の興味関心を広げられるようにしていく。